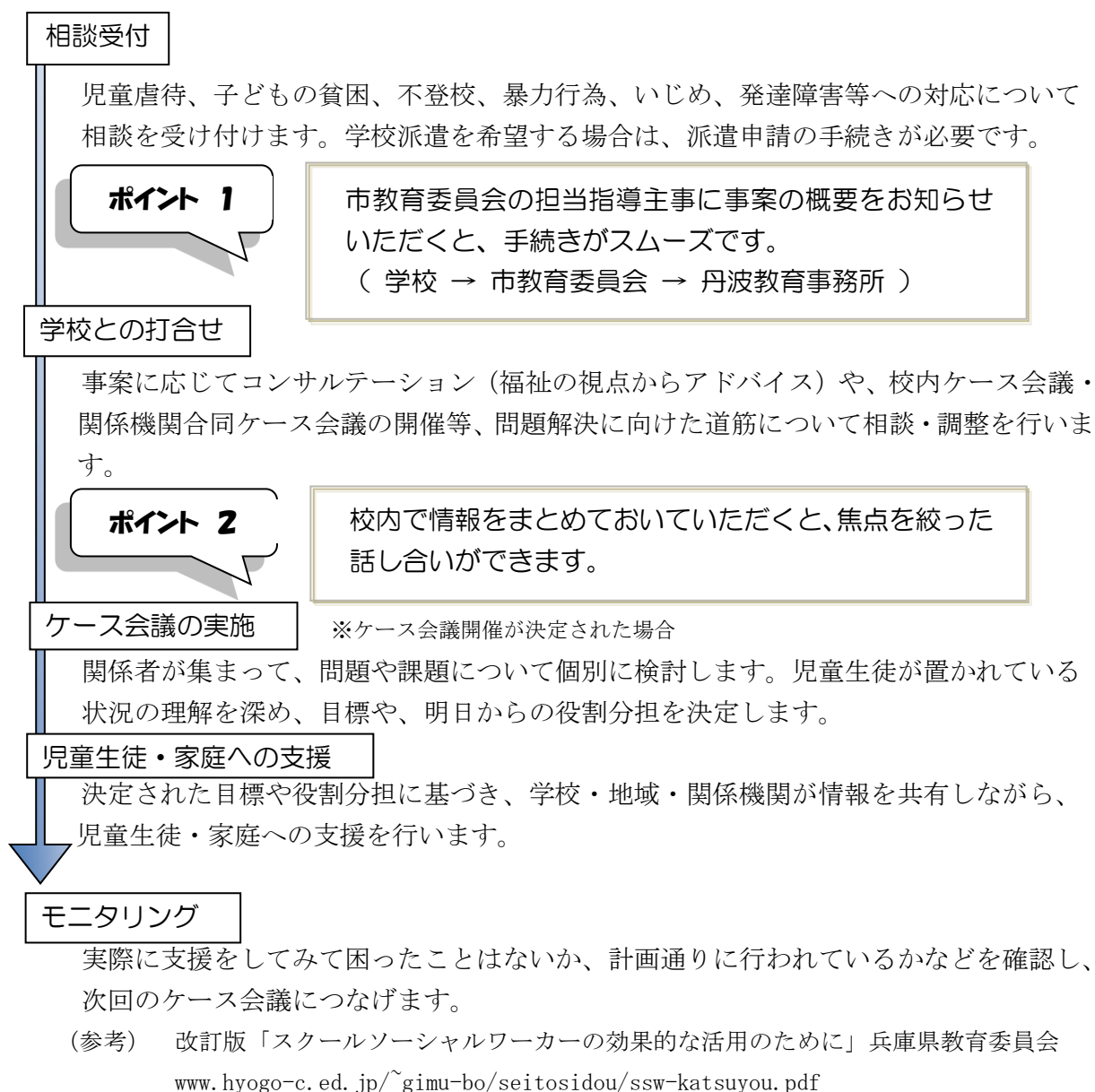


TNB29だより

スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用について

兵庫県では平成 18 年度から学校支援チームに SSW を配置しています。また、平成 28 年度からは「市町スクールソーシャルワーカー補助事業」として、市町への導入も始まりました。SSW が少しずつ身近になる中、先生方に有効活用していただくため、今回は活用の流れやポイントをお伝えします！

☆☆ 学校支援チーム SSW 活用の流れ ☆☆



平成29年度第1回目の学校訪問を終えて

教育支援チームとして、本年度 第1回目の学校訪問を実施して参りました。4月19日からスタートし、7月5日までに管内49校の小・中・養護学校すべてを訪問させていただきました。懇切丁寧なご説明や心温まるご対応をいただきまして、誠にありがとうございました。

今回は、「第1回目の学校訪問を終えて」のテーマで印象に残ったお話の一部をご紹介します。学校長のリーダーシップのもと、日々刻々と変化する学校において努力されている先生方の姿に身の引き締まる思いをしています。ごく当たり前の事を、地道に一步一步着実に取り組まれています。例えば、

- 学校教育目標をもとに学級経営を組み立てている。
- 児童生徒の学校における「居場所づくり、絆づくり、信頼づくり」をしている。
- 自己肯定感や自己有用感の醸成を行っている。
- 児童生徒の課題を明確にしている。
- 課題について全職員による共通理解を図り、取組を行っている。
- 授業改善に取り組み、児童生徒に「分かる授業」「主体的・対話的で深い学び」に向け研修を深化させている。
- 言語活動を充実させている。特に、「結論→根拠→補足説明」をもとに話す。
- 不登校傾向の児童生徒へ継続的な支援、組織的な対応をしている。等

日々のご尽力に頭のさがる思いでいます。

児童生徒は、色々な課題を背負い登校してきます。その課題に向き合い児童生徒、他の先生方、保護者の方、関係機関と連携するなど対応することが必要だと感じます。まさに、学級経営の手腕が問われると感じます。

「平成29年度指導の重点」の学級経営には、次のように記述されています。

学級は、幼児児童生徒が学校園生活の大半の時間を過ごす基本的な集団であり、学習指導や生活指導を進める基礎的な場である。学級担任は、心の通い合う学級経営を基盤に、児童会・生徒会活動や学校行事等の集団活動を通して、望ましい人間関係の形成、自主的、実践的な態度、健全な生活態度の育成に努める。

◎実践目標1 「安心して学べる環境をつくる」

重点項目①「計画的な学級経営の実践」

学校園の教育目標に基づき、幼児児童生徒一人一人の良さをいかした計画的な学級経営に努める。

重点項目②「安心できる学級づくり」

幼児児童生徒一人一人に積極的な関心を向け、達成感や喜び等を共感的に認めることにより、学級が安心できる居場所となるよう工夫する。

重点項目③「教育的愛情に基づいた子どもとのかかわり」

学級は幼児児童生徒の人格形成にかかわる場であるという認識に立ち、一人一人の様子のきめ細かい把握に努め、日常的に声かけをするなど、温かくゆとりのある心で接するよう努める。

子どもたちにとって「居場所・絆・信頼」づくりとなる学級であることを願っています。

最後に、「教えるとは希望を語ること 学ぶとは誠実を胸に刻むこと」

(これは、フランスの詩人アラゴンの言葉です)